

静岡県地学会のあゆみ(10)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026070

静岡県地学会のあゆみ (10)

早いものでもう年会の開かれる季節となった。今夏はいろいろな事情で中部地区での例会は開かれなかったが、東部地区では盛大な例会がもたれ、また西部地区では月1回の日曜巡検会が始められた。このほか気象庁の見学や山梨の水晶採集会など県外へも足を延ばすことができた。これらについて簡単にふれておこう。

第6回例会

8月10日 8:30～17:00

会場 三島市立北中学校

東部地区運営委員の尽力で午前は北伊豆を中心とした野外観察採集会、午後は午前中に採集した岩石の薄片づくりと顕微鏡観察をおこなった。午前の部は高橋豊・伊藤通玄両会員の案内で貸切バス2台に分乗して、湯ヶ島層群の緑色凝灰岩、これを貫ぬく変朽安山岩の柱状節理(小室棒石)、白浜層群に対比される江ノ浦白色凝灰岩の斜交層理、千本浜の海浜礫の観察と採集をおこない、午後は小川賢之輔副会長、鮫島輝彦会員の指導のもと、暑さも忘れる熱心さで岩石プレパレート製作と顕微鏡観察をおこなった。今回は中・高校生を主対象とした例会であったが、暑い一日を無駄なく使った充実した例会であった。参加者は98名に達した。

第10回野外観察採集会

8月26日

今回は水晶の採集を主たる目的として、山梨県塩山市竹森を目的地に選んだ。案内を鮫島輝彦会員にお願いした。一行約30名は塩山駅からタクシーに分乗して竹森へ向かった。

こんな所で水晶が出るのかと驚くような雑木林の草むらの中へ顔を突っこみ、あるいは山道や沢の石かげから、電気石入りのもの、あるいは草入りのもの、結晶面の保存良好な美晶や群晶など、思い思いに採集をおこなった。思ったほど大きなものが採集できなかったのが、いささか心残りであった。

第1回見学会

8月28日 気 象 庁

新庁舎完成により近代化された気象庁を見学したいという会員からの希望によって、この見学会が計画された。当日午後1時に気象庁に集まった一行はまず気象庁の組織や業務内容についての詳しい説明を拝聴し、引き続いて屋上のレーダー室において、富士山レーダーの遠隔操作の実際を眼のあたりに見せていただいた。幸い台風が接近していなかったので詳しい解説を聞くことができた。見学時の富士山レーダーの受信像によれば佐渡～新潟にかけて1時間降水量にして4mm程度の雨が降っているとのことであったが、これが羽越豪雨の始まりであろうとは知る由もなかった。このあと、通報業務の実際、予報業務の実状、電子計算機室などを見学し、近代化への努力を続ける気象庁の姿を理解することができた。それにしても集中豪雨がいつ、どこで、どの程度の規模で起こるかを予測できるのは幾年先であろうか。気象災害の大きさを考える時、観測網の充実と観測

機器の近代化，基礎研究の推進に国はさらに思い切った投資をすべきであろう。

西部地区日曜巡検会

本年 6 月発行，第 9 号の静岡県地学会のあゆみ(9)の中に，日曜巡検会の発足についてお知らせした。その後，西部支部では静大農学部に加藤芳朗先生を中心として，大井川以西の県内の地形，地質を対象として，毎月第 4 日曜日に巡検会を実施している。そのあゆみをここに記し，多くの理解を得ると共に，多数の方の参加を希望している。

【第 1 回】 6 月 25 日 参加者 45 名

案 内 者 静大農学部 加藤 芳朗 会員
浜松市立蛸塚中 鈴木 昂 会員
浜松市立城北小 新村 光 会員

目 的 三方ヶ原台地の地質，貝化石採集

コ ー ス 浜松秋葉坂下 — 蛸塚 — 小藪 — 富塚 — 大人見 — 古人見 — 山崎

見 学 内 容 浜松市の鴨江附近の台地をつくる浜松累層の鴨江相，佐鳴湖附近より西の佐浜相，その上をおおう三方ヶ原礫層を中心に，地質調査の初歩的なことからその方法，浜松累層の概要，礫層中の礫の種類，斜交層理とその分布，海面変化と段丘についてなどの観察や説明が行なわれ，浜名湖畔の洪積層の貝化石の採集を行なった。質の高い巡検会であった。

【第 2 回】 7 月 30 日 参加者 34 名

案 内 者 静大農学部 加藤 芳朗 会員
天竜市立竜川中 老川寿太郎 会員

目 的 竜山帯の結晶片岩類，珪石，マンガン鉱，欧穴，光明層の採集と観察

コ ー ス 天竜市横山 — 大白木 — 安蔵 — 西雲名 — 東雲名 — 千草 — 上島 — 佐久 — 相津

見 学 内 容 横山の西方の竜山帯の結晶片岩，その中に約 10 m の巾をもって露出する大白木の珪石脈，そこで大きさ数 cm の水晶を採集した人もあった。大井平附近の欧穴の観察，西雲名のマンガン鉱床，重輪廻地形，赤石裂線とそれに添うケルンコル地形の観察と暑い夏の日をかなりきつい行程にも負けず熱心な巡検が行なわれた。

【第 3 回】 8 月 24 日 参加者 28 名

案 内 者 静大農学部 加藤 芳朗 会員
浜名郡三ヶ日高校 野島 宏二 会員

目 的 秩父古生層，はんれい岩，蛇紋岩，フズリナ化石採集，三ヶ日原人発掘跡の見学

コ ー ス 三ヶ日 — 奥平山 — 古生層石灰岩 — 宇利峠 — 只木

見 学 内 容 奥平山の石灰岩は二俣以西に見られる秩父古生層の中に点在する石灰岩の一つであり，一行は其中より数個のフズリナの貴重な化石の採集に成功した。宇利峠附近

より東では御荷鉾緑色岩類，蛇紋岩，かんらん岩の採集。1959年10月22日～11月1日に東大地質学教室の調査団によって洪積世人類“三ヶ日人”の頭骨の発見に成功した只木の石灰岩裂罅中の原人発掘跡を見学した。

【第4回】 9月24日 参加者12名

案内者 静大農学部 加藤 芳朗 会員
掛川市掛川西高校 八木 晃司 会員

目的 新第3紀鮮新世の掛川層群，洪積世の小笠礫層の観察とルートマップの作り方

コース 掛川市下俣 — 新田 — 正法寺

見学内容 ルートマップの作り方について実習後，掛川地域の地質の概要と掛川層群についての説明を聞いて非常に露出のよい掛川市の西南の下俣から正法寺まで約2 Kmのルートマップを作りながらの土方泥層，曾我累層の細かい観察を行ない，化石を採集した。天候には恵まれたがあいにく秋分の日であったため，参加者の少ないのが残念であった。しかし非常に熱心な参加者のためか質の高い実習と観察が行なわれた。

(日曜巡検会の項：K.M)

静岡地学第9号 正 誤 表

頁 行	誤	正	頁 行	誤	正
1 本文上3	夫婦	夫妻	5 表3 下1	実施され	実測され
2 上 6	岩奨	岩漿	" 下13	知りたいと望みは	知りたいという望みは
" 上16	Curie夫婦	Curie夫妻	" 下12	kelvin卿	Kelvin卿
" "	同じく夫婦	同じく夫妻	6 下15	壤変	壤変
3 上 5	有名は	有名な	" "	大気は一完の	大気は一定の
" 上13	放射壤変成物	放射壤変成物	7 上14, 15間		(静大放射化学研究所)
4 下14	風化主成物	風化生成物			